

令和7年度 近畿大学附属和歌山高等学校・中学校 学校評価

1. 目指す学校像

- ・校訓「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人になろう」に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育を生徒一人ひとりに行う

2. 学校の努力目標

(1) 人間教育

- ①挨拶・礼儀の重視
- ②自ら考え・判断し・行動できる生徒の育成
- ③各個人の権利の尊重、思いやりの心・平等の心の育成
- ④学校行事・課外活動を通じた自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の醸成
- ⑤生徒会及び各種委員会活動の活性化

(2) 学習指導

- ①授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める
- ②ICT機器を活用した教育力のアップを常に目指す
- ③生徒の未来を視野に入れた教育計画を立て実践する
- ④学習過程の評価重視に係る検討・実践、観点別評価の研究・実践

(3) 進路指導

- ①「大学附属校としての教育」がより充実したものになるよう検討を重ねるとともに、優秀な人材を一人でも多く近畿大学に進学させるようにする
- ②国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う
- ③大学進学後も意欲的に学びを継続できるように主体的に学部・学科を選択させる

(4) 健全な経営

- ①志願者数の確保と定員の充足

以上

令和 7 年度 近畿大学附属和歌山高等学校・中学校 学校評価（自己評価）

1. 人間教育

本校では、生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目標に人間教育の充実に努めている。本年度については以下のような取り組みを行った。

まず、年度初めには交通安全アSEMBリーを実施し、自転車通学のルールやマナー、通学路における危険箇所の確認に加え、バスや電車を利用する際の乗車マナーについても指導を行い、安全かつ節度ある登下校の徹底に努めた。

また、月に一度実施する身だしなみ指導、毎日実施されている登下校指導、生徒会が自主的に行う交通安全啓発活動、保護者会主催の自転車点検と登下校指導などにより、規範意識の向上に努めた。

毎日のホームルーム指導のほか、道徳、人権教育講演会などの活動を通じて、権利の尊重、平等の心、思いやりの心の育成を行った。

さらに、学校行事（体育祭・文化祭）、部活動、サークル活動などを通じて、生徒の主体性を高める教育に取り組んだ。生徒会執行部は自主的にボランティア活動に参加し、各種委員会も活動目標を立て活動を行った。

自転車運転の厳格化に対応する必要もあり、以上のような取り組みは、次年度以降も継続して行っていく予定である。

2. 学習指導

本校では、授業の質の向上および生徒の授業満足度の向上を目的として、以下のような取り組みを行った。

実施教科の垣根を超えて教員が互いに授業を参観し、よりよい授業にするために互いに助言する公開授業の期間を設け、各教科で授業についての検討を行う教科内研修会を計画的に実施し、教員相互の授業力向上を図った。また、生徒に対して従来から授業アンケートを行って生徒の意見や学習の実態を把握し、その結果を各教員が授業改善に生かす仕組みを整えており、本年度も実施した。

これらの取り組みにより、指導方法の工夫や授業内容の充実が進み、生徒の主体的な学びを促進するとともに、授業に対する満足度の向上につながっている。今後も継続的な検証と改善を重ね、より質の高い教育の実現を目指す。

また、ICT 機器や教室での Wi-Fi 環境が完備しており、ICT アプリケーションを活用し、教材配信や課題提出の効率化と双方向的な授業づくりを推進し、授業の質の向上に取り組んだ。これにより、生徒の主体的な学びを促進し、理解度に応じた指導の充実に努めており、今後さらに内容を充実させていく。

教務関係では、従来から導入している教育管理システムにより校務の効率化をすすめた。学習評価については、生徒の学習意欲がより高まることを目標として令和 8 年度に向け見直しを行った。

3. 進路指導

本校では、生徒一人ひとりの進路を実現するため、従来から個別面談を重視した進路指導を実践している。本年度については以下のような取り組みを行った。

多様化する入試制度に対応するため、共通テスト対策補習、受験校レベル別補習、個別添削指導、面接・小論文指導など様々な取り組みを行った。

今年度は国公立大学中期・後期の受験を辞退するものが多く、大学受験の長期化に対する生徒への精神的なサポートが来年度への課題といえる。

4. 健全な経営

本校では、入試広報部を中心としながらも、特定の部署に限らず全教員が一体となって連携し、多様な募集活動に取り組んでいる。

具体的には、学校説明会やオープンキャンパスの充実はもとより、外部での広報活動や中学校との連携強化、プレテストの実施や個別見学、相談会など、さまざまな角度から本校の魅力を伝える工夫を重ねた。その結果として、志願者数は3年連続で増加しており、これまでの取り組みが一定の成果を上げているといえる。

今後は少子化の一層の進行により、生徒募集を取り巻く環境はさらに厳しさを増すことが予想される。そのため、これまで以上に戦略的かつ継続的な努力が求められる。社会や受験生のニーズの変化を的確に捉えながら、本校の教育内容や特色をより明確にうちだし、選ばれる学校であり続けるための取り組みを一層強化していく必要がある。